



子育て応援コンソーシアム事例発表会を開催

南あわじ市子育て応援コンソーシアムは、企業・学生・行政が一体となり、「若者や子育て世代に選ばれるまち」を目指し、活動しています。3月6日に事例発表会を開催し、創意工夫ながら働きやすい職場づくりに取り組んでいる参画企業が、その取り組みの成果や課題を発表し、参加者同士で意見交換を行いました。

当日は、市と連携して市のさまざまな課題解決に取り組んでいる淡路三原高校の学生が企画、撮影、編集をした企業紹介動画が紹介されました。生徒からは「動画制作を通して地元の企業をもっと知りたい気持ちが芽生えた」「魅力が伝わることで地元に残りたい人が増えるのでは」などさまざまな意見がありました。

今後も地域が一丸となって、子育てや介護と仕事を両立できる市域全体で働き方改革に取り組んでいきます。



なでしこ分団 淡路3市女性消防団 合同炊出し訓練実施

2月15日、洲本市防災公園において、淡路3市の女性消防団員によるスキル向上と相互の知識や経験を共有することを目的に、初めて合同炊出し訓練を実施しました。

災害時には、迅速かつ的確な行動や対応が求められるため、今回の訓練では団員同士の連携をはじめ、防災機材の使用法や調理手順を確認し、対応力の強化を図りました。

今後も地域の安全・安心を守るため、継続的な訓練と連携強化が期待されます。



「淡路うず助」海洋ごみ回収チャレンジを実施

2月23日、慶野松原海水浴場にて、海洋プラスチックごみを回収するイベントを実施しました。回収したごみの一部は、アップサイクルして「淡路うず助」のチャリティグッズの原材料として使用します。

イベント当日は約130人の皆さんに参加いただき、海岸に散乱していた海洋ごみ約60キログラムを回収することができました。

ご参加・ご支援いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。



施政方針

子育ての喜びが見えるまちの実現を目指して「健幸と食、そして学びを育む未来創生予算」



施政方針全文

2月24日に招集された第139回市議会定例会で、守本市長が施政方針を表明しました。その概要をお知らせします。全文と予算の詳細は市ホームページをご覧ください。（予算と主要事業は4〜7頁）

【時代認識と市政理念】

人口減少の加速、気候変動の深刻化、国際情勢の緊迫など、社会と自然の大きな転換期を迎えています。国では国土強靱化や食料・エネルギー安全保障の強化が進められており、地方自治体には、こうした時代の潮流を踏まえ、地域の特性を生かした持続可能な地域社会を築く役割が求められています。

本市は、豊かな農水産資源や高い市民活力を強みとして、人口減少や食料安全保障などの課題に先進的に対応する地域モデルを築き、市民とともに次期総合計画の策定を進めながら、未来に向けたまちづくりを推進してまいります。

【五つの行動】

第一の行動 超高齢社会の克服

本市は高齢化率が全国平均を大きく上回り、日本の将来像を先取りする地域です。この現実を強みに変え、生涯にわたる活躍できる社会の実現を目指します。シニア層や障害のある方など多様な人材の力を地域で活かす「超短時間雇用プロジェクト」を拡充するとともに、フレイル予防や健診の充実など健康寿命の延伸に取り組めます。



さらに、地域全体で高齢者が支え合う仕組みづくりや医療体制の充実・医師確保のための支援制度を創設します。働く喜びと共助の力を生かし、超高齢社会を克服する先進モデル地域の実現を目指します。

第二の行動 子育て環境の向上と教育の充実

「子育ての喜びが見えるまち」を目指し、妊娠から子育て期まで切れ目ない支援を充実させます。出産祝金の継続、通院支援や妊婦歯科健診の導入などにより安心して出産できる環境を整えるほか、こども誰でも通園制度やICT活用による保育環境の充実を図ります。

教育分野では「学ぶ楽しさ日本」の実現に向け、主体的な学びを育む授業改革や学校DXを推進します。部活動の地域展開（ミニカッ事業）やアフタースクール事業、多様な学びの場の整備により、すべての子どもが個性を伸ばし成長できる教育環境を整え、生涯にわたる学び続ける地域社会を築きます。

第三の行動 地域の資源を活かした地元産業の活性化

農業・畜産業・水産業など地域の基幹産業を守り育てるとともに、新たな価値創造に取り組めます。担い手確保や地域計画に基づく農地利用の最適化、ほ場整備、有害鳥獣対策など生産基盤の強化を進めます。本市で培われてきた耕畜連携による生産循環の取組を継承しながら、バイオマス資源の活用など新たな資源循環の構築を進め、環境と経済が両立する持続可能な産業体系の形成を図ります。

観光面では、豊かな食資源を活かし、神戸市との食の連携による神戸・淡路島エリアのブランド化を進めるとともに、福良地区の「食の街区」形成などにより地域の賑わいを創出します。さらに、徳島県と連携し、本市と阿波おどり空港との接続や、大鳴門橋周辺の観光基盤整備、鳴門海峡の渦

潮の世界遺産登録に向けた取組などを進め、広域観光を推進します。あわせて、情報発信の強化や地域おこし協力隊、大学との連携などにより人材を呼び込み、若者が誇りを持って働き暮らせる地域経済の好循環を生み出してまいります。

第四の行動 安全・安心のまちづくり

市民の暮らしを支える基盤として、防災・防犯体制と生活インフラの強化を進めます。防災行政無線の更新や消防団装備の充実、自主防災組織の支援などにより地域防災力を高めるとともに、防犯カメラ設置支援や特殊詐欺対策など安全対策を推進します。また、コミュニティバスの維持・改善による地域交通の確保、沼島地域の輸送体制の検討など暮らしを支える移動手段を維持します。道路や橋梁、市営住宅、下水道などの公共インフラの計画的な維持管理を進めるとともに、地域と連携して小規模修繕を行うインフラメンテナンス事業を推進し、現場の課題に迅速に対応します。あわせてごみの減量・リサイクルの取組を進め、将来にわたり安心して暮らせる持続可能な地域基盤を整備してまいります。

第五の行動 「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり

市民が主役のまちづくりを実現するため、「対話と行動の行政」をさらに充実します。地域との対話を重ねながら課題を共有し、自治会の担い手不足など地域課題の解決に向けた支援や若者の参画促進を進めます。また、広報紙やLINEを活用した情報発信を強化し、市政への理解と参加を高めます。生成AIなど新たな技術を活用した業務改革や組織再編により、市役所の機動力と政策形成力を高めます。市民との協働を軸に、職員が主体的に行動する「最強の市役所」を実現し、持続可能なまちづくりを推進してまいります。